

会 議 録

会議の名称	令和3年度 第3回東秩父村地域公共交通活性化協議会分科会
開催日時	令和3年11月11日(木) 13:30~16:15
開催場所	東秩父村役場 2階 新会議室
出席者	別紙のとおり
問い合わせ先	企画財政課 岩田 浩興 電話番号 0493-82-1254 (直通)
会議記録	発言記録 ・ 要約
議事内容	<ol style="list-style-type: none">1. 開 会2. 会長あいさつ (笹沼会長)3. 協議事項<ol style="list-style-type: none">(1) 東秩父村地域公共交通計画との事業仕分けについて (案)(2) 路線バスと空白地有償運送の連携について (案)4. その他5. 閉 会

1. 開会（東秩父村企画財政課 岩田）

2. 会長あいさつ（笹沼会長）

3. 協議事項

（1）東秩父村地域公共交通計画との事業仕分けについて（案）

○事務局にて、8/5に開催された第2回分科会で検討課題とされた事項について、東秩父村地域公共交通計画の施策体系に現在想定される事業・分科会で協議を行っている事業を仕分けた表について説明し、協議を行う。

（詳細内容については資料「目標達成のための施策・事業（計画より抜粋及び具体的な事業の仕訳）【案】R3.11.11時点」を参照）

<質問・意見等>

（Qは質問 →は回答 △は意見等）

表「I-①-5 運賃制度の見直し」について

Q ダイナミックプライシングとは具体的にどのように実施されているか。

→高速バスなどで実施されている手法で、混雑状況等によって金額が日々変動する料金設定のことである。市内路線バスなどで実施しているところはない。熊本県などで路線バスへの導入を検討しているが、本格導入はまだ行われていない。

Q ここの表に記載しているダイナミックプライシングとは、適正な料金設定という意味での認識でよいか。

→日々の料金の変動ということではなく、実情に適した料金設定という意味で記載している(村内在住者用と村外の方用の料金設定を行うなど)。

△料金に関する事なので長期的に検討していくべき。

△当該路線は協議会運賃のため届出を行えばダイナミックプライシングを実施できると思うが、導入する場合、実例がないので関東運輸局などと時間をかけて実施に向けた検討をしていくことになる想定される。

Q 基本的な方向性は、村民の負担を減らし、観光者から相応の負担をもらうという考えでよいか。

→様々な方向性・方法が考えられるため、分科会で今後も継続検討していく。

表「I-①-3 停留所の環境整備」について

Q 危険バス停は東秩父村の中に存在するのか。

→大宝バス停が横断歩道に掛かっているため、危険バス停に該当していた。昨年度バス停の場所を変更した。

補足：危険ランクはABCの順に危険度があり、東秩父村は大宝バス停が危険度Aに該当していたので実施した。その他の該当場所については、危険度に応じて順々に対応していく予定。（イーグルバス 堀米委員補足）

表「Ⅲ-①-2 バスターミナルの維持」について

Q メンテナンスが必要になると思うが、建物の管理は村が行っているのか。

→要綱では村管理となっている。日々の清掃等は和紙の里が行っているが、定期点検やガラス清掃などは業者等に委託し、村で実施している。

Q 台風などがあつたとき、安全面では協議会としても配慮しないとイケないと思う。あれは建築物になるのか、工作物になるのか。

→工作物扱いとされている。

△大きな工作物になるので、可能であれば点検結果などを定期的に協議会に報告した方がよいのでは。

(消防法や建築基準法の検査ではないが、現在は年に1～2回施工業者が点検を行っている状況である。)

表「Ⅲ-①-1 ICカードの普及促進」について

Q ICカードの利用率はどのぐらいか。

→長距離乗車する方(観光客と想定)の利用が多く、他の路線に比べても顕著に出ている。村内は小学生が多いので定期利用がほとんど。金額的には約6割がICカードの利用となっている。(イーグルバス 堀米委員補足)
(計画策定時に行ったアンケートによると村内でIC保有者は51%)

Q 和紙の里の店舗では買い物等でICカードは使用できるか。また、村内で使える施設はあるか。

→村内で使える施設はない。

Q 村内在住者にICカードの普及は考えているか。

→コロナ対策のなかで、ICカードの普及促進としてICカードへのチャージ料15,000円の助成を実施した。(16歳以上～22歳以下)

Q バスの定期はICカード化できるのか。

→費用が高額のため、バスのIC定期は運用できない。

△免許返納者へICチャージの助成を行っている自治体もある。

△バス会社では、モバイルPasmo等へ移行を促している。

△高齢者もスマホ保有者は多いと思うので、今後、村内のスマホ保有率を調べてみるといいのでは。

△ICカードが和紙の里で使用できないのは、普及への課題である。
(機能はあるが、手数料が高いため使用していない状況。)

Q 交通系ICカード(バス)もサービス利用料は高いのか。

→利用料は高いが、乗客へのサービスの提供として導入している。
精算の時間が短くなった点は、メリットである。

全体の内容について

△表全体の位置付けが見やすくよい。

△表について、事業実施主体や、旧交通網形成計画などからの見直しの点（追加・加除）についても反映させたほうがよい。

<協議事項（1）まとめ>

- ・地域公共交通計画との事業仕訳表については、今後も内容更新していく。
- ・表に事業実施主体を追加する。

（2）路線バスと空白地有償運送の連携について（案）

○事務局より、8/5に開催された第2回分科会にて、委員より寄せられた意見をもとに路線バスと交通空白地有償運送の連携についてのたたき案を作成し、各施策ごとに概要説明を行い、ご意見をいただく。
（詳細内容については、資料「東秩父村地域公共交通計画における路線バスおよび交通空白地有償運送連携について（案）を参照」）

<質問・意見等>

（Qは質問 ➡は回答 △は意見等）

- Q 現在のやまびこ会の利用方法は、様々な人を乗り合わせる運用を実施しているか。
➡同じ方向で時間が合えば同乗するが、料金は両方からそれぞれ規定の金額をもらう。行きは時間が合えば乗せられれば同乗するが、帰りは別々になる。

施策1「相互利用案内・乗り方ガイドの作成」について

（概要）

○路線バスまたは、交通空白地有償運送の利用者向けに乗り方ガイドやモデルコースの周知（案）

○資料 P12 モデルコースの説明（事務局）

- ・モデルコース①

通学での利用をイメージしており、朝はやまびこ会が利用できないため自家用車を想定して作成している。（学生はこの時間に乗らないと間に合わない想定されるため）やまびこ会が通学の時間帯に利用できるとなれば、モデルコースの設定が変わってくると想定される。

- ・モデルコース②

以前実施した「NPO 法人やまびこ会空白地有償運送利用者データ集計」で小川赤十字病院（以下小川日赤）への利用が多かったことや住民アンケートにおいても路線バスを利用する際には、86%が小川町方面へ向かうと回答していたため設定したモデルコースである。

Q 小川日赤まで行くのはどのくらいかかるか。

- ➡モデルコースでは、待ち時間含め20分ぐらいとなっている。しかし村民の意識として「時間がかかる」（待ち時間が30～40分ぐらい）認識がある。

△モデルコースのように行けるということを示すことが重要。30分以上待つと思っている人が多いが、20分程度の待ち時間で行けるという認識をもってもらうことが重要である。

△宣伝方法次第で、バスで小川日赤まで行けることが周知できれば利用されると思う。モデルコースとして、具体的に村民に提案できれば、利用方法が見えてくるのではないか。

△アンケートに基づいて、他にも整理してモデルコースを設定したらいいのではないか。

△バスに乗ったとしても帰れる案があれば、利用してもらえないのではないか。

△バスの利用で料金が安くなれば、バスが利用されるのではないか。

△路線バスや交通空白地有償運送の乗り方ガイドについては、交通事業者に内容を確認してもらい、必要に応じて、ホームページや広報等に出して周知を図ってもよいのでは。

施策2 路線バス・交通空白地有償運送「共通スタンプラリー」について

(概要)

○路線バスまたは、交通空白地有償運送を利用した際に、スタンプカードを配布し、利用1回につき1個のスタンプカードを乗務員が押し、達成した場合は、回数券無料券などのインセンティブを贈呈する。(案)

Q スタンプラリーは、紙で実施するのか。

➡携帯アプリ等で実施する方法もあるが、導入については費用が高い。高齢者のスマホ保有率も把握できていないので、まず紙で実施したい。

Q スタンプは運転手が押すのか。

➡前回の分科会で実施の場合は協力可能と聞いているが、運転手の負担になるようであれば検討したい。

△和紙の里で買い物した場合も、ポイントが貯まるようにしたらいいのでは。(和紙の里の割引や記念品など。)

△バスとやまびこ両方使ってポイント貯まるようにした方が、相互連携に効果があると思う。

Q 割引券や記念品の費用支出についてはどこから支出するのか。

➡現状では、村の予算から対応する。

△和紙の里の500円分の商品券とするならば、和紙の里に協賛していただいて、村と和紙の里で半分ずつ負担するのはどうか。

△路線バスまたはやまびこ会の利用と、和紙の里の双方を利用した時など、公共交通とお店の利用等があったときに渡すのもいいのでは。

△公共交通との連携をするためのポイントと考えてもいいのでは。

△まずはハードルを下げて、一回でも相互の利用（路線バスと交通空白地有償運送両方）があれば景品がもらえるように設定したほうが、利用が増えるのでは。

施策3「自宅送迎制度実証運行（仮称）」について

（概要）

○現状の交通空白地有償運送制度の中で、村内和紙の里で有償運送車両を常駐させ、希望する村民の方は、自宅などへ送迎する。（案）

△数日前に乗り合わせタクシー開始の議論が新聞に掲載された。今後通常のタクシーにおいても乗り合わせ乗車が可能になるかもしれない。

△やまびこ会は直行直帰だから金額の負担が大きい。和紙の里からバスに乗った方が安くなることをPRすれば、利用が増えるのではないか。

△小川から戻ってくるバスは決まっているので、その時間にやまびこ会が和紙の里のバスターミナルで待機していることを、実証運行を行う場合は強調した方が良い。

△和紙の里でやまびこ会が待機するには、運転手の募集を考えないといけない。（現状では運転手も車も不足している。）

Q 運転手の確保は可能であるか。

（例えば、村のシルバー人材センター等に、特殊事情の際だけ運転手をお願いする場合なども可能なのか。）

➡現在やまびこ会では、運転手は8人おり、新たに雇用する際は、運転手の講習受講が必須。（皆野町シルバー人材センターは現在そういった運転手業務の運用を行っている。）やまびこ会もそういった条件に合う方がいれば、実証運行ができると思うが、ある程度継続的にお願いできる方がよい。

△和紙の里でバスから降りた人を乗せれば、有償運送車両が待機しているので、利用者の待つ時間がなくなる。

△現状では、小川町駅から和紙の里止まりとなっている場合は、バスでは皆谷方面に行けないが、これを行う事により例えば、17時22分に和紙の里に到着すると、やまびこ会が待機していて、皆谷方面に自宅等に送迎していくというイメージができるのではないか。

△バスの時刻に合わせて、夕方などの時間帯にやまびこ会で運転手を半年間雇用するなど運転手を確保しないと実施するのが難しい。

△やまびこ会がどの程度運行できるかによるので、村と内容を協議していただきたい。

△和紙の里に買い物に来ている人が、この制度を利用する際に、やまびこ会が待機しているから乗せてほしいと言われても、バスの時刻に合わせて待機だということを伝えないといけない心配がある。そうなった場合乗れば一緒に同乗してもらうようにする。

△実際は、小川町で買い物して帰ってくると夕方前の利用が多いのではないか。

△寄居駅～和紙の里間のバスについては、村内の方は、和紙の里まで来ないで、大内沢地区で降車する事が多いため、時刻に合わせて実施しない予定。

△実証運行は夕方まででやってみるのでよいのでは。

Q まずは、バスの時刻に合わせて実施させていただきようではないか。

➡小川駅から和紙の里止まりのバス利用の際に、和紙の里からやまびこ会を利用していただくようにする。

(現状バスダイヤ 和紙の里に 13:05～18:31 に到着するバス)

Q 実証運行をする際には、やまびこ会で現状の営業時間から延長することは可能か。

➡運転手と車両を確保出来れば、実証運行は可能だと思われるので、その際は延長してもよい。(13時から18時半までで実証運行をしてみる。)

Q 実証運行する際の車両の確保についてはどうするか。

➡実施する場合、車両をリースするので良いのでは。

Q 実証運行の利用料金は？

➡無料にすると本格運行になった場合、お金を取るのか難しいかもしれないが、実証実験の間は、ワンコインぐらいで設定してもよいし、無料でもいいのでは。

△利用料金を取る場合、村の協議会以外にも手続きが必要となる可能性があるので確認した方がよい。

Q 運転手は集まりそうか？

➡募集してみないとわからない。今のままでは実証実験は難しい。運転手を募集するのが先。午後から出勤という条件で、今後協議が必要。

Q 実証運行の予算は、当初予算ではなく補正予算でとるようになるか。

➡以前の分科会で話のあったふるさと納税を使ったクラウドファンディングを利用するのもありだと思うが、現状、実施の目途が立ってきたら補正予算で対応するものと考えている。

<協議事項(2) まとめ および 次回分科会に向けて検討事項>

①施策1「相互利用案内・乗り方ガイドの作成」のコースの再検討を行う。

(モデルコースをわかりやすく見やすいレイアウトに変更など。)

・乗り方ガイドについては、必要に応じてホームページや広報に周知していく方向で検討する。

②施策2「共通スタンプラリー」は路線バス及び交通空白地有償運送の相互連携の部分を考慮し、修正して案を出す。

・両方利用した場合にスタンプ押印する事

・集めるスタンプの数の緩和

・周辺店舗との連携の実施などの検討。(ポイント制度も検討)

・スタンプを集めた際の景品については、今後も継続検討。

③施策3「自宅送迎制度実証運行（仮称）」は、やまびこ会と運用に向けて別途協議・調整の場を設けて進めていく。

- ・実証運行対象の時間帯は、平日のみで下記条件の路線バスを対象（13：05～18：31の間で運行するバス【w02系統の小川町～和紙の里】）
- ・運転手・車両については、現状では新たな人をお願いし、車両はリースする。
- ・詳細部分を事務局とやまびこ会で調整する。

4.その他

- 事務局より、参考資料として「公共交通に関するクラウドファンディング」の活用例を委員に展開する。
- 次回第4回分科会は、令和4年1月末か2月上旬を想定している。
- 11月に開催予定だった本協議会は、協議事項が特にないため、開催を延期し3月開催予定の協議会で、分科会で検討した内容も踏まえ報告、提案していく。
- 企画財政課眞下課長より、毎回会議では意見をいただき、その後担当で検討を行っている。今日も担当だけでは発想できないことを皆さんに考えていただけるので、再度検討して皆様と協議できればと思う。またご協力お願いしたい。

5.閉 会（東秩父村企画財政課 岩田）